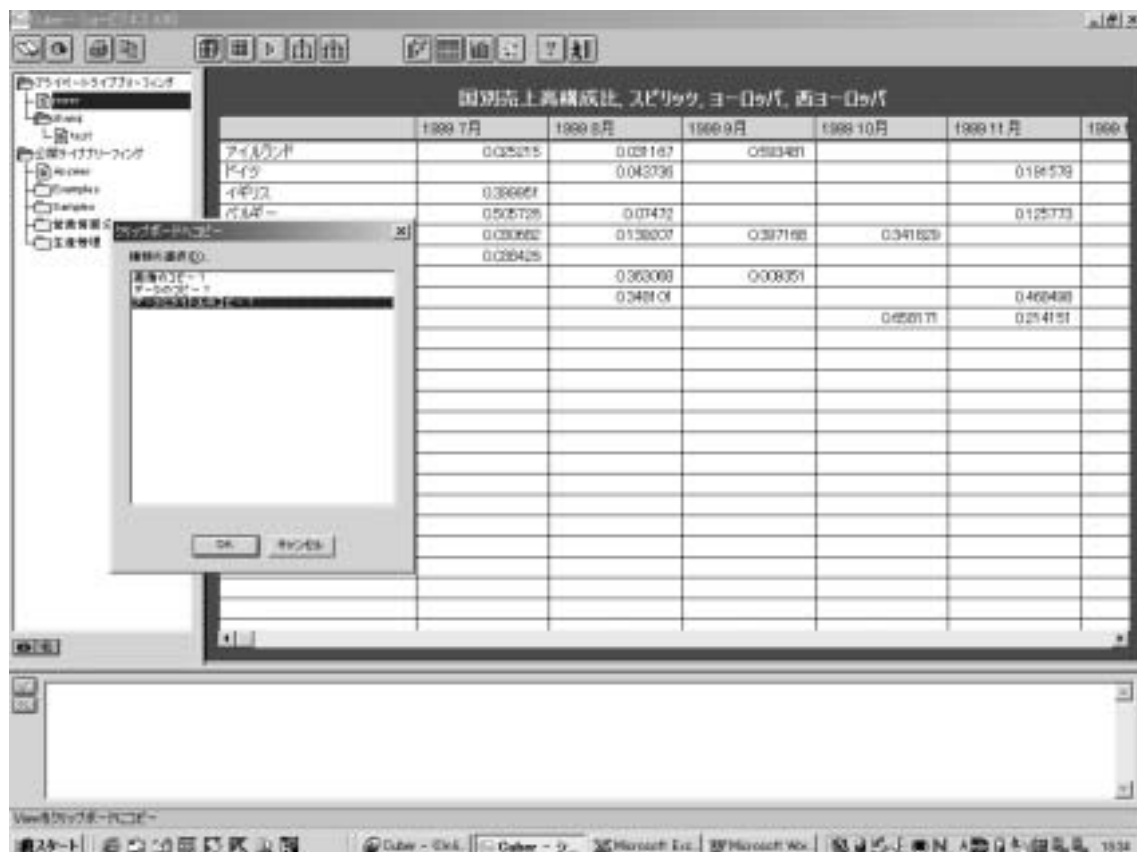


キューバーを使って報告書を作る場合について

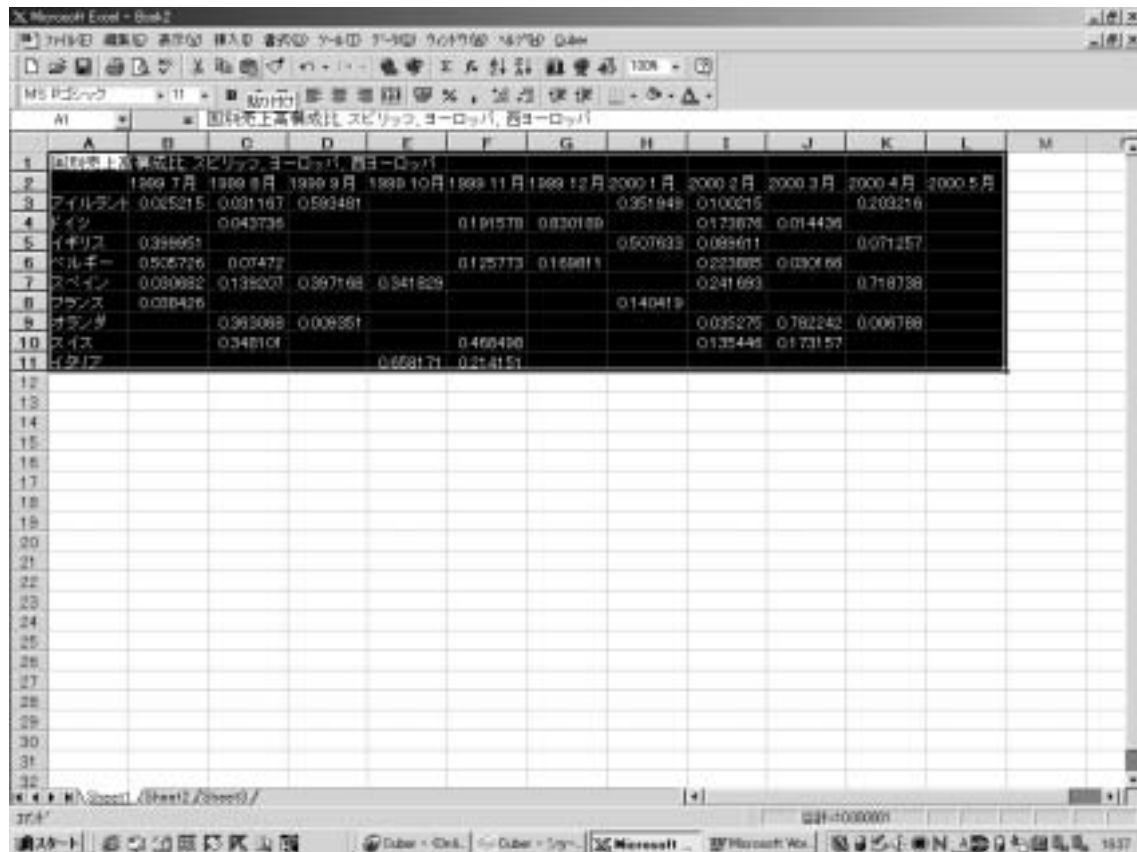
「ノーツ DB にたまったデータをビューから123やエクセルに書き出してグラフ化できるのだから、わざわざキューバーを使うまでも無い」と考えられがちなのですが、ここで報告書を作成することがメインであるお客様用に便利な機能をご紹介します。

機能のご紹介をしてから、日本を良くするという観点に立って、どのようにノーツを活用すればよいかについても考察してみました。

【キューバーからエクセルに表をコピー】



キューバー上で目的のスライス(「キューバー実行」で処理し、作成した表)を選択表示し、コピーアイコンをクリック、「データとタイトルのコピー」を選択します。



	1999.7月	1999.8月	1999.9月	1999.10月	1999.11月	1999.12月	2000.1月	2000.2月	2000.3月	2000.4月	2000.5月
フィンランド	0.025215	0.031167	0.593481				0.351948	0.100215		0.203216	
ドイツ		0.043736			0.191579	0.830189		0.173876	0.014436		
イギリス	0.399959						0.507633	0.089611		0.071257	
ベルギー	0.505726	0.07472			0.125773	0.169811		0.223885	0.030666		
スペイン	0.030982	0.139207	0.397168	0.341829				0.241693		0.718738	
フランス	0.038426						0.140819				
オランダ		0.363069	0.009351					0.035275	0.782242	0.006768	
スイス		0.348101			0.468490			0.135446	0.173157		
イタリア				0.658171	0.214151						

エクセルを開いてメニューから「貼り付け」を選択すると、このように表がコピーされます。あとは自由に表の形式を整えることができます

また、キューバー上で「グラフをコピー」を選択すると、エクセルにはグラフィメージを貼り付けることが出来、エクセルのウィザードなどを使わなくても報告書に利用するグラフが作れます。

【グラフはカテゴリー別の分類と集計から】

表を作成するとき、元のデータを何かのカテゴリー別に分類集計してから、時系列で見るのか組織別に見るのかなどの方針に従って、縦と横の項目を決めてゆきますね。

エクセルでグラフを作るのが簡単と考えている方の中には、元のデータの分類、集計についての作業を考えずに、出来た表からウィザードに従ってのグラフ化だけをイメージしている方がいらっしゃいます。

実は前処理にあたる分類と集計は大変な作業量を伴います。手順としては

1. エクセルに元データを全行コピー
2. 必要なデータを並び替えて抽出、いらぬものを削除する
3. データのソートを使って、必要な項目のカテゴリー別に並び替え
4. 並び替えたデータを合計セルに計算式を作成して合計
5. 合計値をコピーなどにより、別の位置に貼り付け、表にしてゆく

エクセルでは小計行、中計行や総計行を作って表をまとめることが多いのですが、これをグラフ化するためには新たなコピーなどによる作業が発生します。小計なども行の増加などがあったとき、計算式の作り直しなど、継続的にモニターするには不便なものとなります。また時系列に直した表を作るときには、今まで作成した表のファイルをすべて開いてコピーをしたり、リンクしたりという作業が発生し

ます。

元のデータはひとつなのですが、このような理由でグラフ化はとてつもなく遠い作業となっています。

一方、IT から吐き出される内部データは洪水といえるほどのもので、忙しい管理職など、「チェックしてください」と部下からデータ帳票の束を渡されても目を通せるわけがありません。報告にしてもそうです。適正なグラフ化は、変化のポイント(かなめ)だけを見つけるのに非常に役立つものです。

【キューバーは集計結果をエクセルにもコピーできます】

「どうしても今までの流れがエクセルで表を作って報告書に添付していたので…」という方には、キューバーをデータ集計のためにご利用いただけます。これにより、作業量を飛躍的に削減することができます。

キューバーを実行して元データを集計、スライスしますと、デフォルトの表が出来上がります。これをコピーアイコンを使って「データのコピー」「データとタイトルのコピー」を行いますと、簡単にエクセル上へデータを表形式で書き出すことができます。「画像のコピー」を選択すれば、ウィザードを使わなくてもグラフも貼り付けることができます。

【継続的な外部情報の分析が重要】

まず一般的に報告書は、会議用などその場限りの用途で作成されるものが多いようです。そのため分析もダイナミック(多面的、動的)で継続的なものではなく、一面的な集計をして強引に結論付けるか、数枚の分析を状況説明的に見せて終わるか、数字の羅列である表や元データの帳票を参考資料と称して添付することで、努力しました…というようなふりをするところにとどまりがちです。

これでは会社のような継続的に活動することが目的の組織において、分析の本来の主旨である「仮説と検証」という流れは不十分なもので終わってしまう可能性があります。

継続的に顧客の意見、クレーム、ニーズや関連情報などの外部情報を取得し分析、具体的なアクションにつなげてゆくことは、生き残りのための必須条件となっています。そして IT リテラシーとも関連して、日本企業を強力に活性化するものでもあります。

【ノーツの情報は宝の山】

「ノーツは文書データをナレッジとしてためるのに使うものだ」というイメージが強いので、いままではビューにして集計を表示するだけにとどまっています。いろいろな切り口で見るには目的のビューをたくさん作るしか方法がありません。

また、大量のデータが更新された場合、ビューの再構成に結構時間がかかることがあります。そして、いろいろな目的のノーツ DB が作られた場合、ビューを DB 横断的に見る方法はありません。

「ノーツのデータをビューでは見難いのでグラフにしたい」というニーズがあっても、一度 123 形式などに書き出してから手間をかけて処理するという方が、非常に多かったと思います。またはグラフ化をあきらめていたり、あらたにアクセスなどの DB を構築した方も多かったのでは…

初めは少しずつ DB を作ってゆき、作りながら動かしながら発展させる。小さく始めて大きくしてゆくの非構造化のノーツの特徴です。ニーズを大きく膨らませた DB が会社になくさん存在していますね。まさに宝の山です。

これをキューバーでスライスとして 1 箇所に格納、グラフ化してモニターしてゆくことが出来るのです。定期的な更新もタスクをエージェントで自動化できるので、手間を削減できます。

コメントとあわせて保存。継続的に全社でグラフをダイナミックに活用、共有していただけたら、ノーツ

活用のアイデアは無限に広がってゆくでしょう。

トップもつかえる？簡単な操作

ドリルダウンもできる多面的な切り口

豊富なグラフの種類

異常値が色でわかる信号表示の表作成

自分の目的のグラフを好みの形式で保存可能

ワンクリックで表やグラフを取り出し、データの更新や表の作成の手間削減

手軽なコメントも含めた共有環境実現

ビューを直接読み込めるので ODBC などの設定必要なし

高速スライス作成処理とトラフィックの軽い高速グラフ表示

ノーツノドミノ環境以外の特別なサーバーなどが必要ない手軽な導入

全社的にお客様のニーズを取り込み共有するために、すぐにでも構築にとりかかれる柔軟性を持った、もっとも優れたプラットフォーム「ノーツノドミノ」。この特性をフルに生かして、いままで実現できなかったビジュアルな表現を可能にした「キューバー」。

一般の OLAP ソフトでもなかなか実現できない世界を、キューバーでぜひ体験してください。